



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しく下さい。

■取付けされる方へのお願い

▲警告 …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲警告

- 電気工事は、電気工事士の有資格者が行ってください。
法令、規定及び取付け説明書にしたがわず誤った工事を行うと事故や故障につながります。
- 開口部から内部に金属類を差込んだり、落したりしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 電源コードをキズ付けたりしないでください。コードが破損して感電・火災の原因となります。
- 電源を入れた状態で配線・取付け・結線をしないでください。感電や故障の原因となります。
- ねじは $2.0+0.5N \cdot m$ { $20+5kgf \cdot cm$ } のトルクでしめた後、ゆるみ・ガタツキのないことを確認してください。

■取付け上のお願

- 電源を入れる前に誤配線などがないことを確認してください。
誤配線のまま電源を入れると、故障の原因となります。
- 機器に液体(水・ジュース・薬品など)をかけたり、揺らさないようにしてください。
故障の原因となります。
- 次のような場所への玄関ドアの設置は避けてください。故障や正しく作動しない原因になります。
 - ・軒が短くドア本体に直接雨水がかかるところ。
 - ・本製品の使用環境温度範囲は $-10^{\circ}C \sim 40^{\circ}C$ 、使用周囲湿度範囲は20%~90% RHです。温度が上昇するところ(直射日光・直接暖房が当たるところ・ボイラーの近くなど)や $-10^{\circ}C$ よりも温度が低くなる場合があるところ、通気性が悪く湿気の多いところには使用しないでください。また、寒冷地では、風除室を設置してご使用をおすすめします。

■目次

■取付け位置図	2
■部品明細と各部名称図	2
■取付け前に実施いただきたいこと (切替えコネクタの切替え)	2
枠の組立て時に実施すること	
■上枠補助センサー(オプション品)の取付け加工	3
枠の取付け時に実施すること	
■配線引出し加工(枠取付け前に実施ください)	4
■リニアスライドの取付け	5~6
1 リニアユニットへのアングル取付け	5
2 リニアユニットの取付け	5
3 スイッチの取付け	5
4 コネクタの接続	6
5 ドア本体の建込み	6

■給電ケーブルの取付け(システムキーの場合のみ)	7
■上枠補助センサー(オプション品)の取付け	7

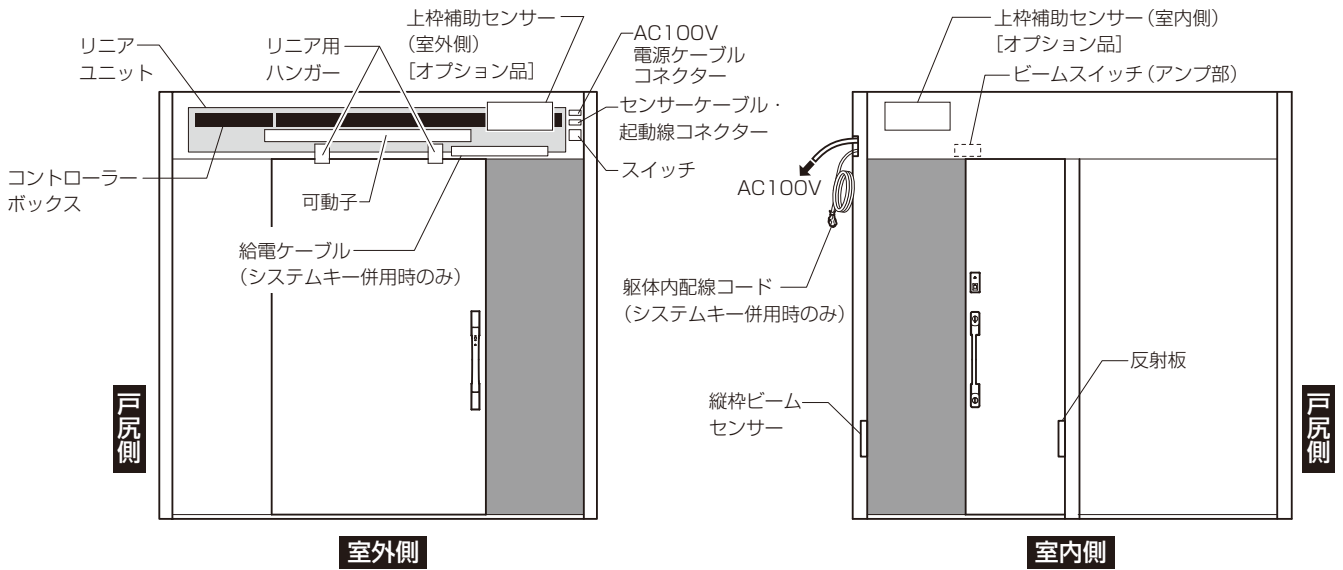
電気工事士さまの作業

① AC100V配線ケーブルの結線	8
② 上枠補助センサーの配線用ケーブルの結線	8

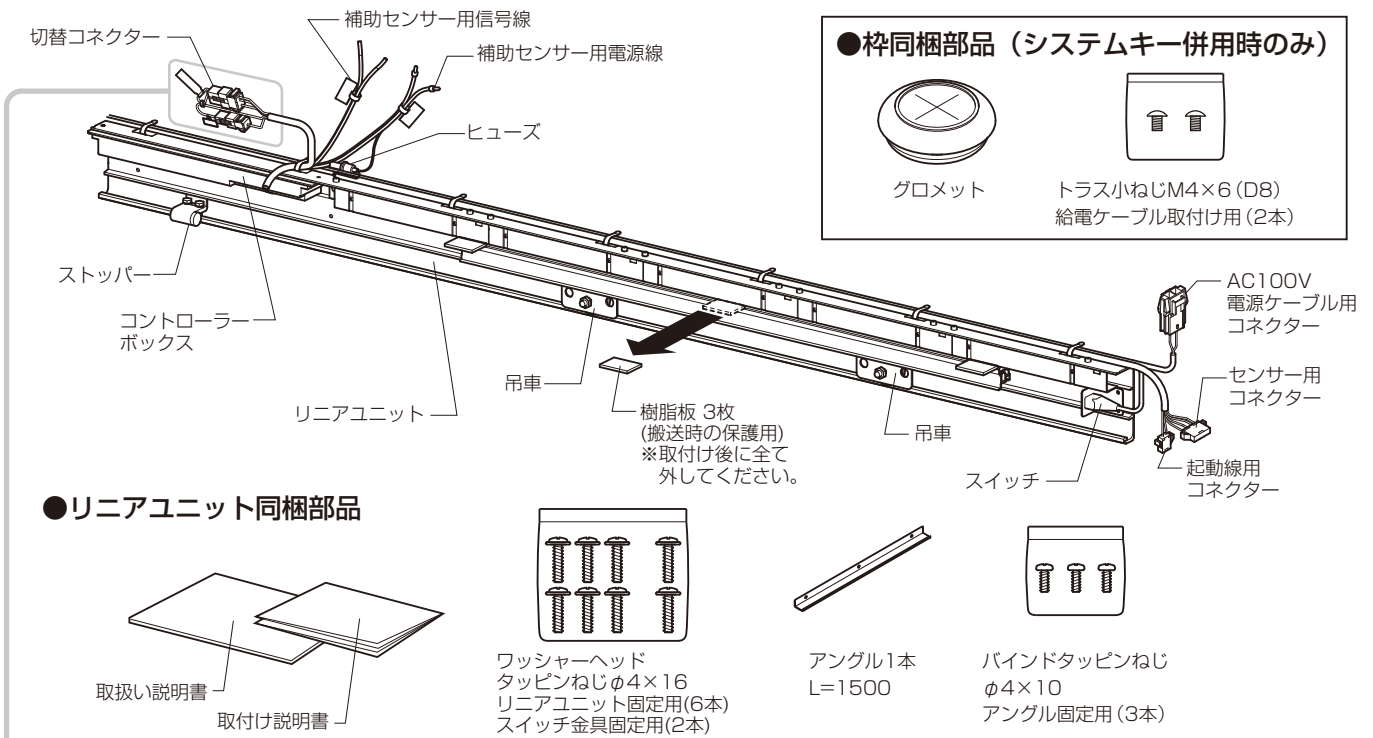
建付け調整

■ドア本体の建付け調整	9
・戸先ガイドローラーの取付け・調整	10
・ストライクの調整	11
・ストッパーの固定	11
・上枠アタッチメントカバーの調整	11
■リニアの作動確認	12

取付け位置図



部品明細と各部名称図



取付け前に実施いただきたいこと

- ・システムキーと併用する場合は、「(ラッチ)切替えコネクター」を抜いてください。間違ったまま使用すると、解錠時に勝手に扉が開いてくることがあります。

システムキー併用(ラッチ機構 無)の場合 ラッチ切替えコネクターを抜いておく	その他(ラッチ機構 有)の場合 ラッチ切替えコネクターを接続しておく
<p>商品切替えコネクター</p>	<p>商品切替えコネクター</p>

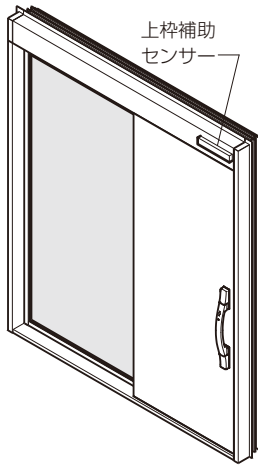
※ラッチ機構とは
扉を強めに締めても戸先に内蔵されたラッチがはまり、扉のはね返りを防止する機構です。電気錠の操作と連動して自動で扉が開く仕様の際は、ラッチ機構無になります。

【上枠補助センサー(オプション品)を取付ける場合】

■上枠補助センサー(オプション品)の取付け加工

- ・ 枠を取付ける前に上枠に上枠補助センサー用の取付け加工を行ってください。
- ・ 上枠補助センサーは、枠や電気錠の種類で取付け可否があります。取付け前に下記可否表を参照ください。

■上枠補助センサー取付け位置



■上枠補助センサー取付け可否表

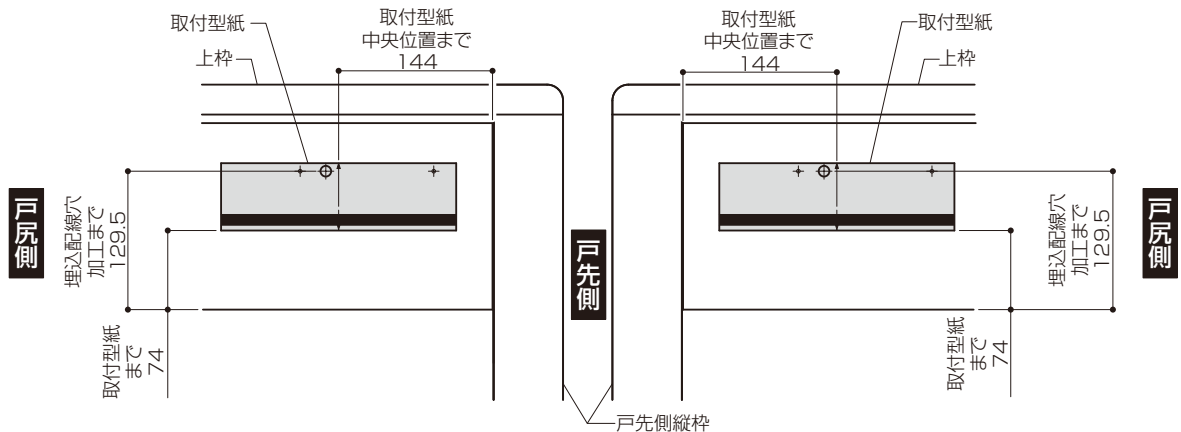
●取付け可、○取付け可(ただし網戸との併用は不可)、×は取付け不可

	一本引き		片袖	
	室外側	室内側	室外側	室内側
リニアスライドシステム	×	×	×	×
CAZASplus +リニアスライドシステム	×	×	×	○※
タッチキー +リニアスライドシステム	●	×	●	○
システムキー +リニアスライドシステム	●	×	●	○

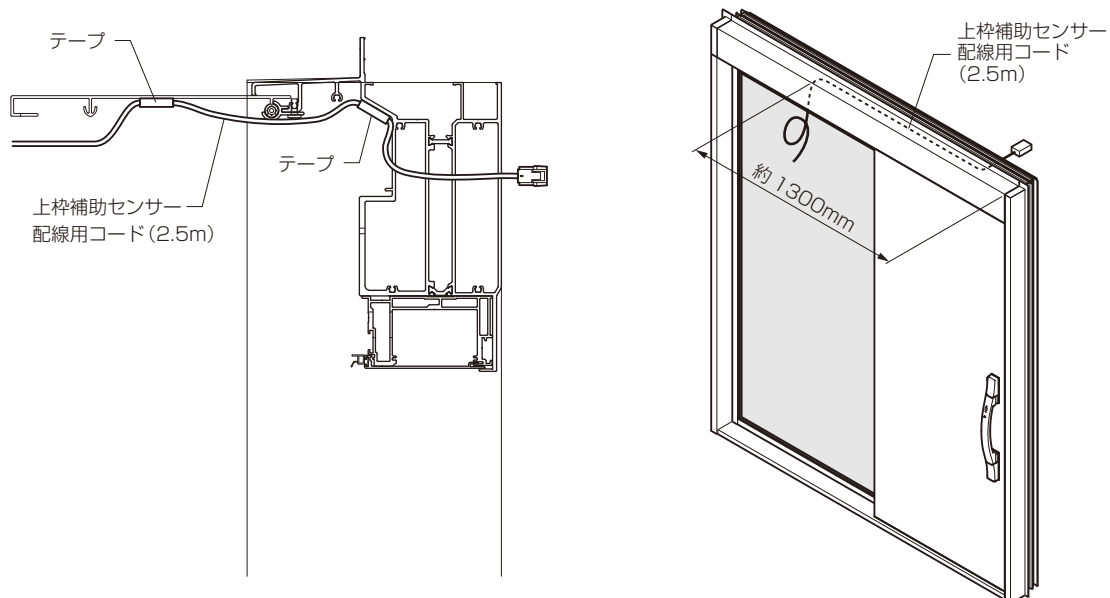
※上枠補助センサーは、自動施錠ONでの使用が前提となります。自動施錠OFFで使用する場合は、検知エリアから離れて扉が閉まってから施錠を行う必要があります。

■上枠補助センサー(オプション品)の取付け加工手順

- ①上枠補助センサーに同梱の取付型紙を上枠に貼付け、型紙の指示に従って穴加工を実施します。
※取付け加工には、φ3.4mmとφ10mmの金属用ドリルが必要になりますので、事前に準備ください。

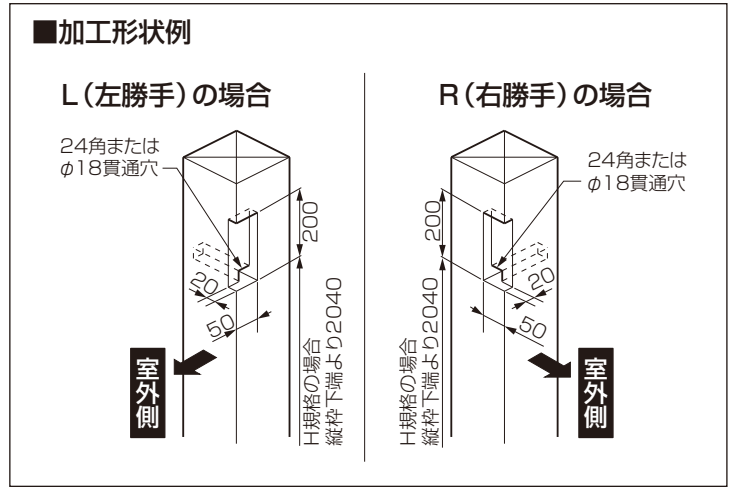
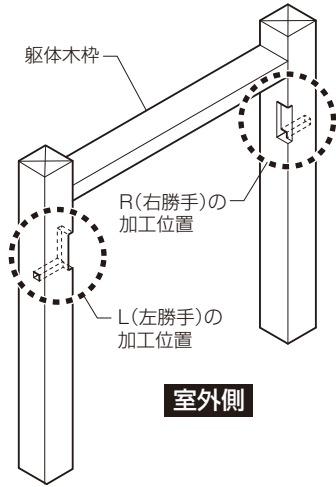


- ②室内側に取付ける場合は同梱の配線ケーブルを下図のように通して、上枠にテープで固定してください。



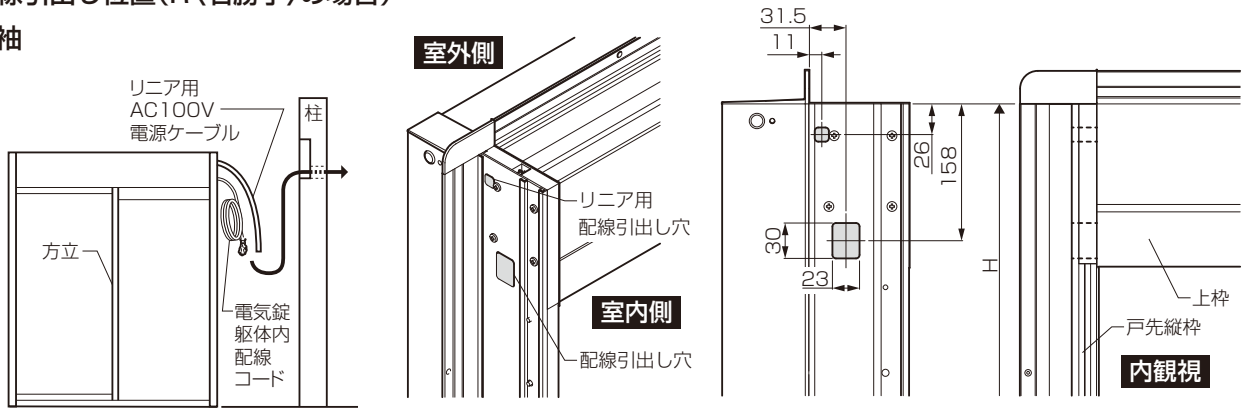
■配線引出し加工

枠取付けの前に柱に以下の加工を行ってください。

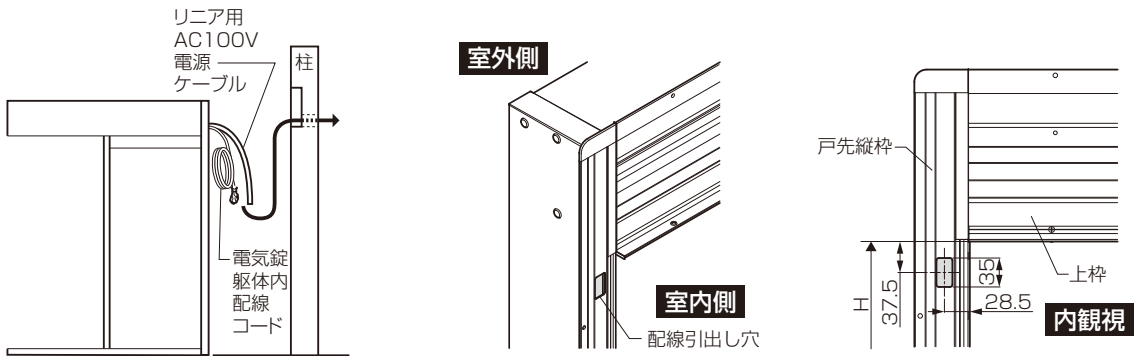


1.配線引出し位置(R<右勝手)の場合)

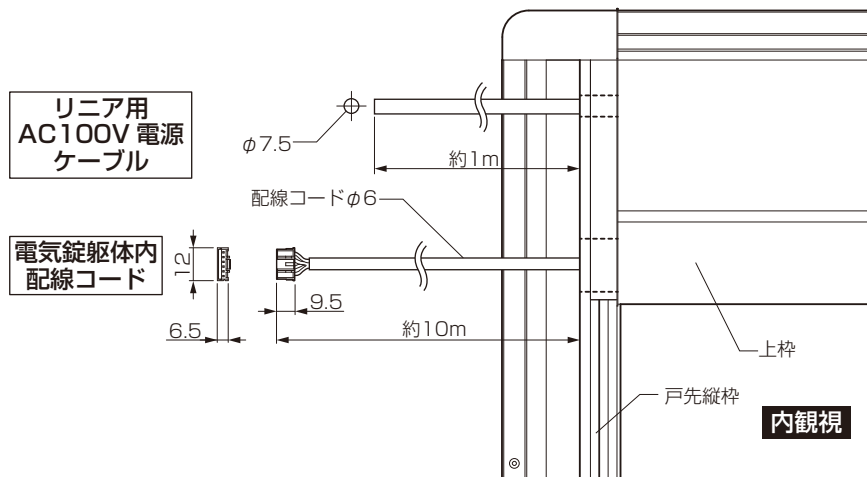
①片袖



②一本引



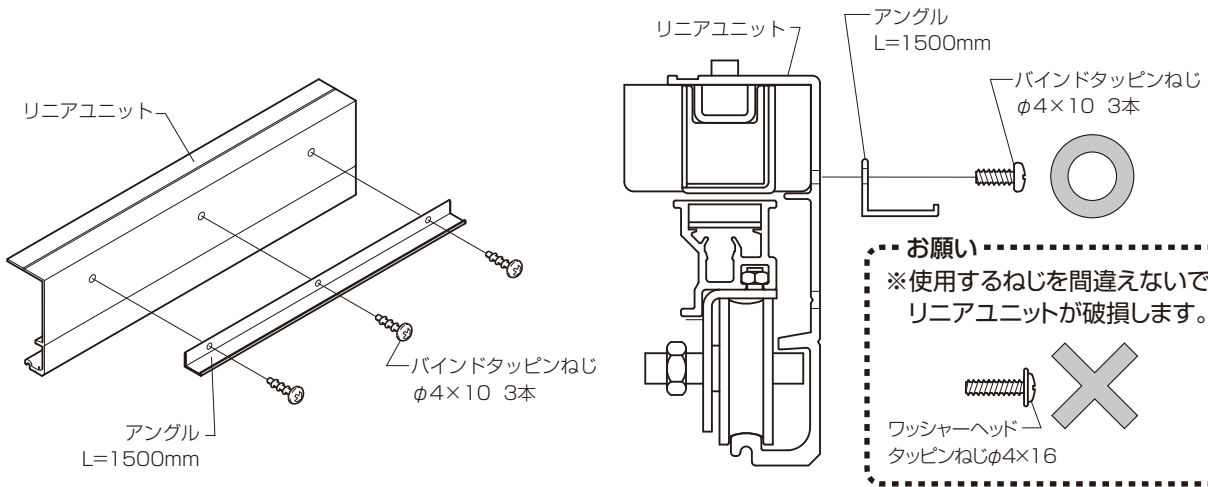
2.配線詳細



■ リニアスライドの取付け

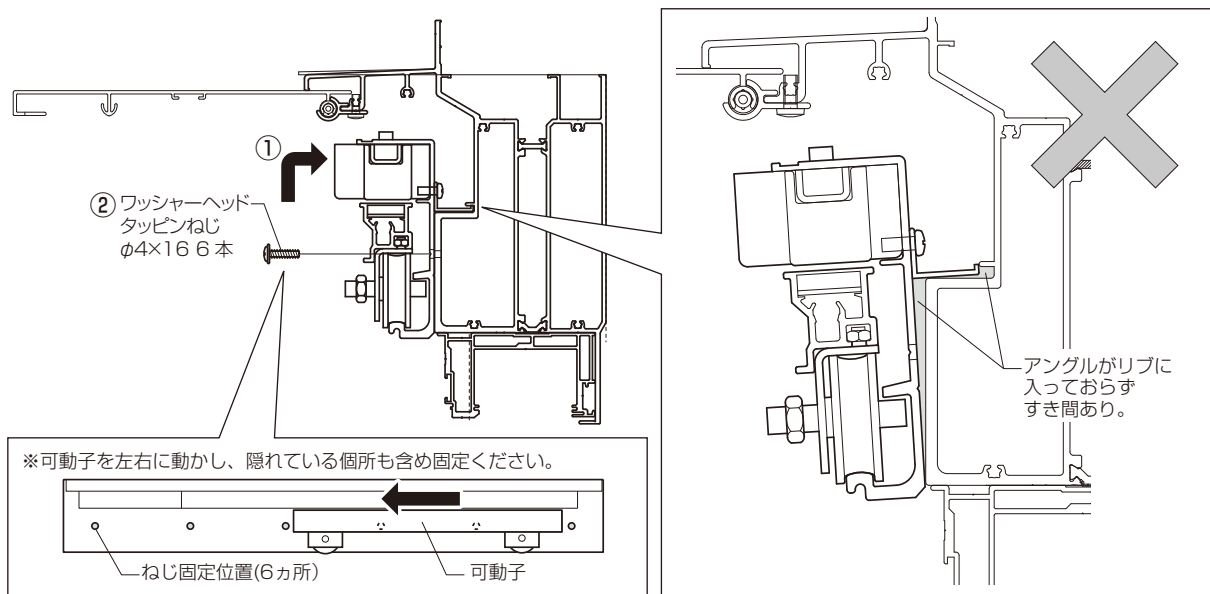
① リニアユニットへのアングル取付け

- 図の向きでアングルをねじでリニアユニットに固定してください。
- ※ 下図の向きに合わせて取付けください。



② リニアユニットの取付け

- ① リニアユニットに①で取付けたアングルを上枠のリブにひっかけます。
※ リニアユニットと上枠の取付け面にすき間が無いことをリニアユニットの左右端部を触って確認ください。
- ② 同梱のワッシャーヘッドタッピンねじでリニアユニットを上枠に固定します(6カ所)

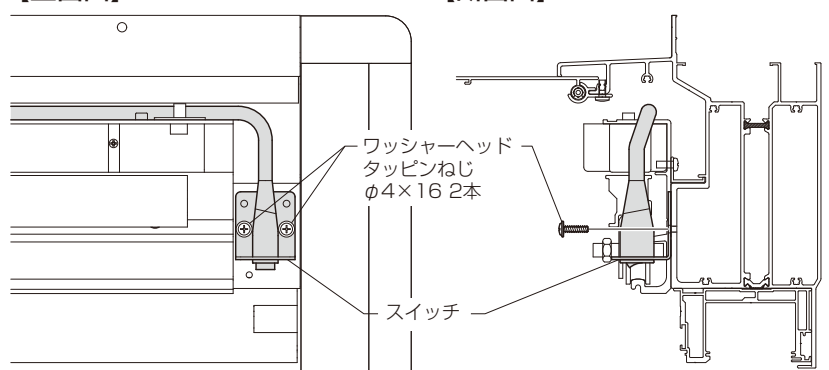


③ スイッチの取付け

- リニアユニットに仮止め(テープ止め)されているスイッチを、同梱のワッシャーヘッドタッピンねじで上枠に取付けます。

【正面図】

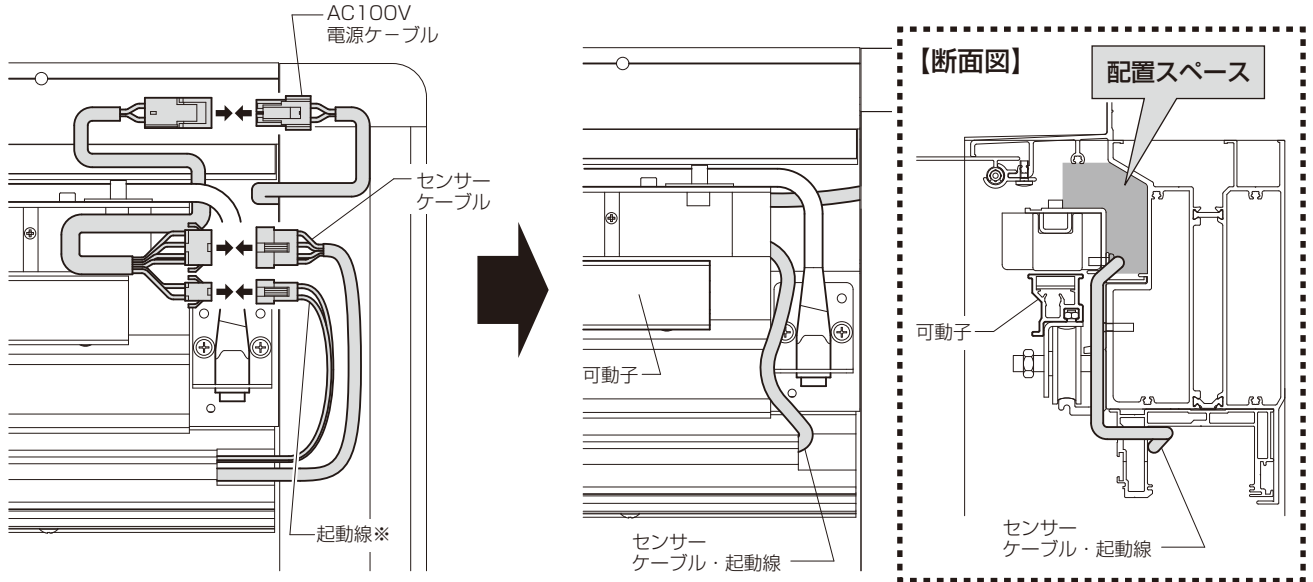
【断面図】



4 コネクターの接続

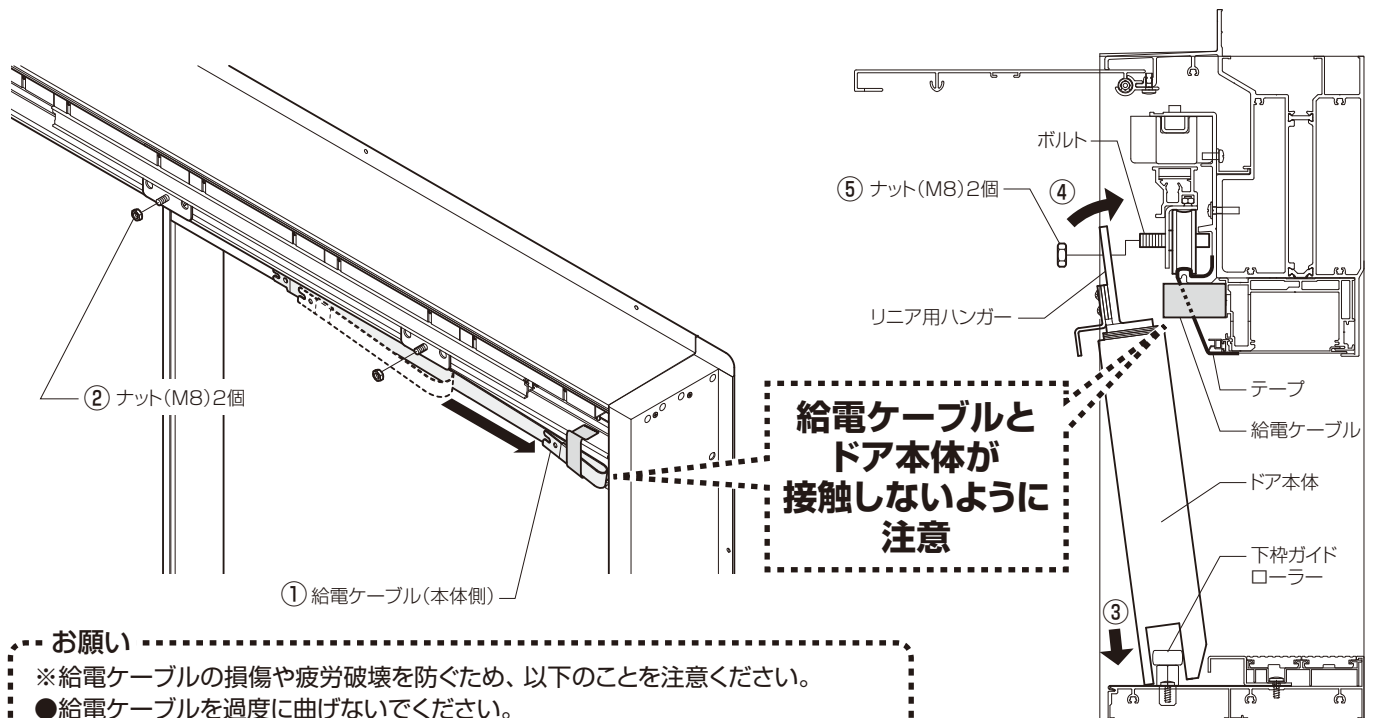
- ①「AC100V電源ケーブル」「センサーケーブル」「起動線※」の各コネクタを図の通り接続します。
 ※起動線はシステムキーの場合のみ、その他の仕様ではありません。

- ②下図のように、ケーブルを取り回し、可動子と各ケーブルが接触しないスペースにコネクタを配置してください。



5 ドア本体の建込み

- ①上枠アタッチメントに仮止めされている、給電ケーブル(ドア本体側)を外し、できるだけ戸先側にずらし、手前に曲げた状態で新たな養生テープにて枠に再度、仮固定します。(システムキーの場合のみ)
 ②ハンガーベースに取り付いているナット(M8)を外します。
 ③ドア本体を持ち上げ、ドア本体の下部が下枠ガイドローラーをまたぐように下枠にのせます。
 ④ドア本体を少し持ち上げて、リニア用ハンガーをボルトに引っ掛けます。
 ⑤先ほど外したナットを締めます。(ナットを締め込むことで、ドア本体が少し持ち上がります。)
 ※給電ケーブルが納入状態のまま、ドア本体を建込むとケーブルを破損させるおそれがあります。



お願い

- ※給電ケーブルの損傷や疲労破壊を防ぐため、以下のことをご注意ください。
 ●給電ケーブルを過度に曲げないでください。
 ●ドア本体やハンガーと給電ケーブルが接触しないように仮固定してください。
 ●給電ケーブルを垂れ下がった状態にしないでください。

■給電ケーブルの取付け(システムキーの場合のみ)

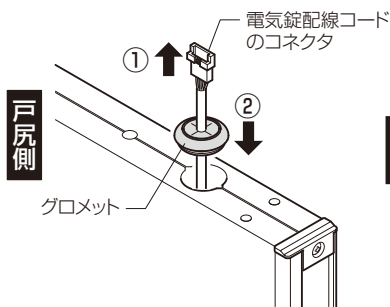
※システムキー仕様以外の場合は下記の作業はありません。

●お願い

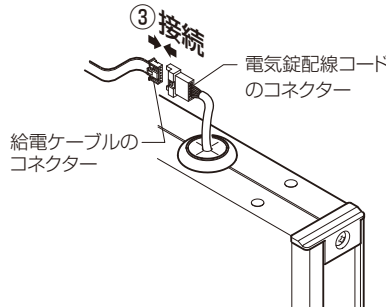
※給電ケーブルが切れるのを防ぐため、以下のことに注意して取付けてください。切断・損傷してしまうと動作時に支障をきたすおそれがあります。

- 給電ケーブルを必要以上に引張ったり、逆に折ったり、過度に曲げないでください。
- 給電ケーブルを垂れさがった状態にしないでください。

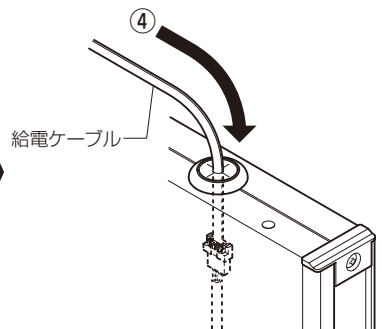
- ①ドア本体から出ている電気錠配線コードのコンネクターをグロメットに通します。(グロメットは「上枠アタッチメント」にテープで仮固定されています)
- ②グロメットを本体にはめ込みます。



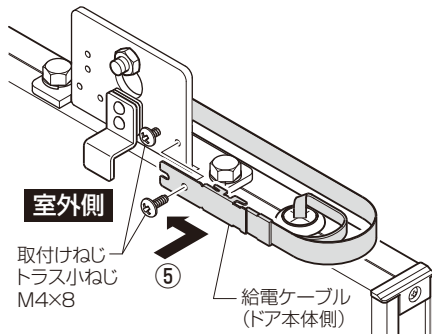
- ③給電ケーブルと電気錠配線コードのコンネクターを接続します。



- ④接続したコンネクターは配線ごとドア本体内部に押し込みます。

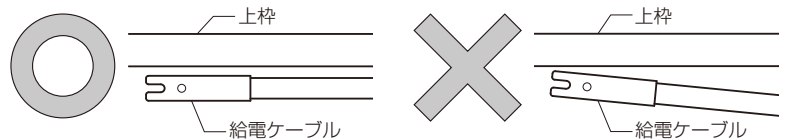


- ⑤グロメットに同梱のトラス小ねじで、給電ケーブル(ドア本体側)をリニアハンガーの戸先側に固定します。



●お願い

※給電ケーブルが枠に対して平行になるように枠側とドア本体側両方の取付け位置を調整してください。給電ケーブルは、枠やドア本体と接触すると破損するおそれがあります。



■上枠補助センサー(オプション品)の取付け

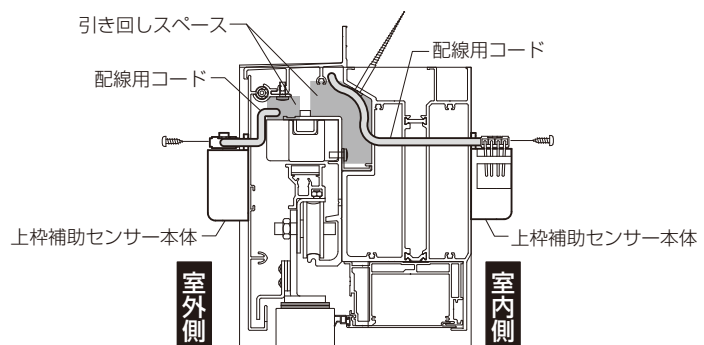
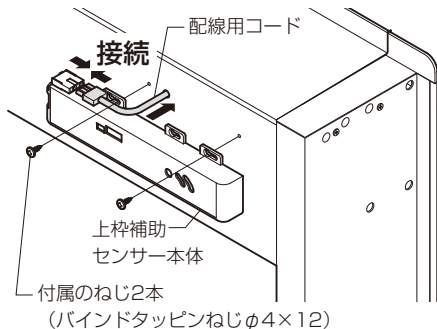
※結線作業は、電気工事に依頼ください。

※取付けにあたっては、上枠補助センサー同梱の取扱説明書もご確認ください。

そして、取付け完了後は、取扱い説明書を参照し、調整の作業を行ってください。

- ①上枠補助センサーの化粧カバーを外し、『3/12 上枠補助センサー(オプション品)を取付ける場合』であけた取付け用下穴(φ3.4mm)に付属のねじで上枠補助センサー本体を固定します。
- ②埋込配線用穴(φ10mm)に上枠補助センサー同梱の配線用コードを通しコンネクターを接続します。
- ③配線用コードを戸先から1300mmぐらいの位置まで上枠内のスペースを引き回します。

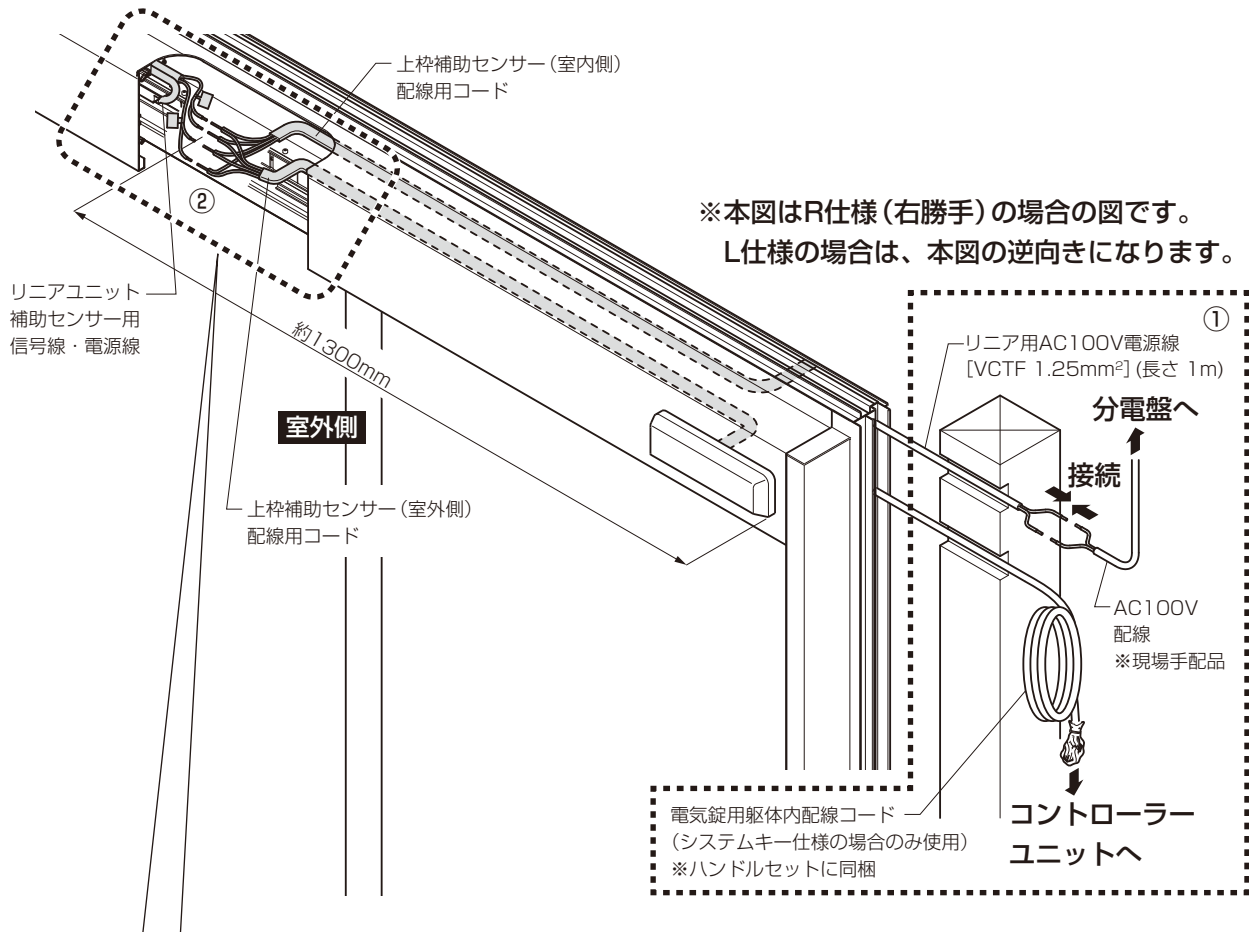
※配線用コードは、戸尻側でリニアユニットの補助センサー用信号線・電源線と直結するため、適宜な長さにカットし、テープ等で枠に止めておいてください。



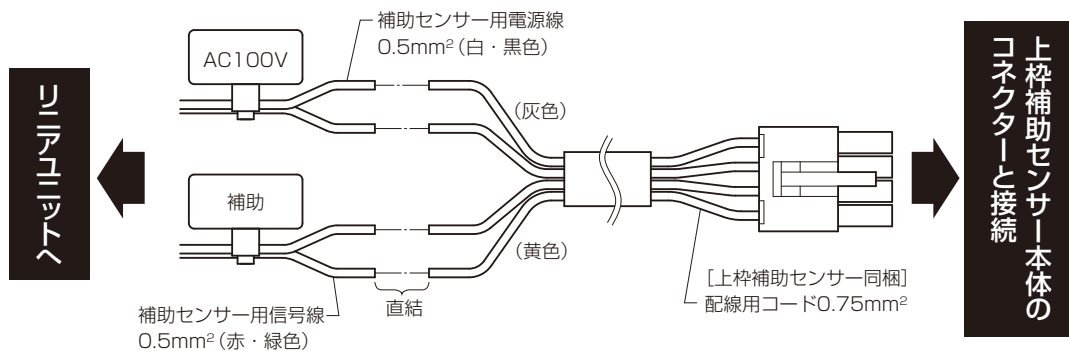
※上枠補助センサーが1つだけの場合もあります。

■電気工事士さま作業

- ①100V電源ケーブルの接続
- ②上枠補助センサー(オプション品)の配線用コードと補助センサー用信号線・電源線の接続



・配線用コードをリニアユニットから出ている補助センサー用信号線、電源線に色を合わせ、直結願います。
 ※補助センサーを室内外に2台取付ける場合は、配線用コード2本を束ねて信号線、電源線に直結してください。
 ※結線作業には「WAGO社 WFRシリーズ」の使用をおすすめします。



■建付け調整

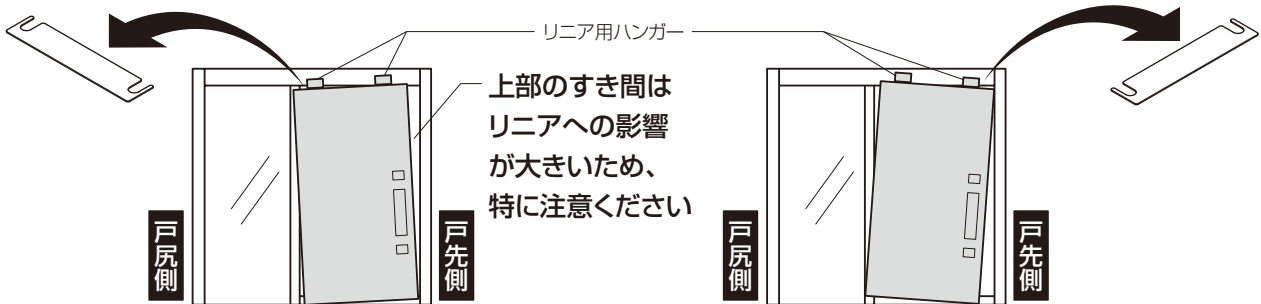
■ドア本体の建付け調整

【縦枠上部にすき間がある場合】

戸尻側のスペーサーを抜きます。
※上部のすき間を残さないでください。

【縦枠下部にすき間がある場合】

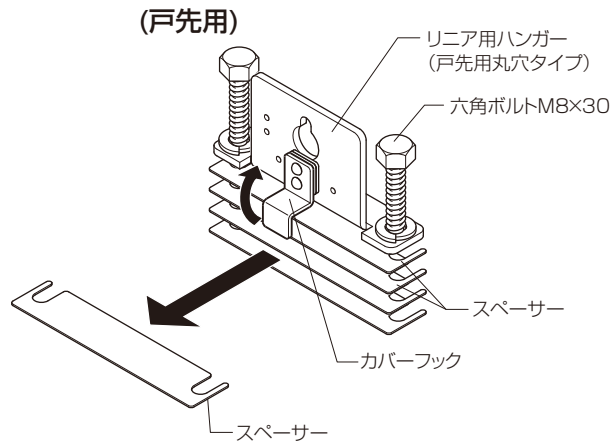
戸先側のスペーサーを抜きます。
※給電ケーブルを外してから行ってください。



※戸先ガイドローラーを取付けている場合は戸先ガイドローラーの固定ねじをゆるめてから実施ください。(10/12「戸先ガイドローラーの取付け・調整」参照)

■スペーサーの抜き方

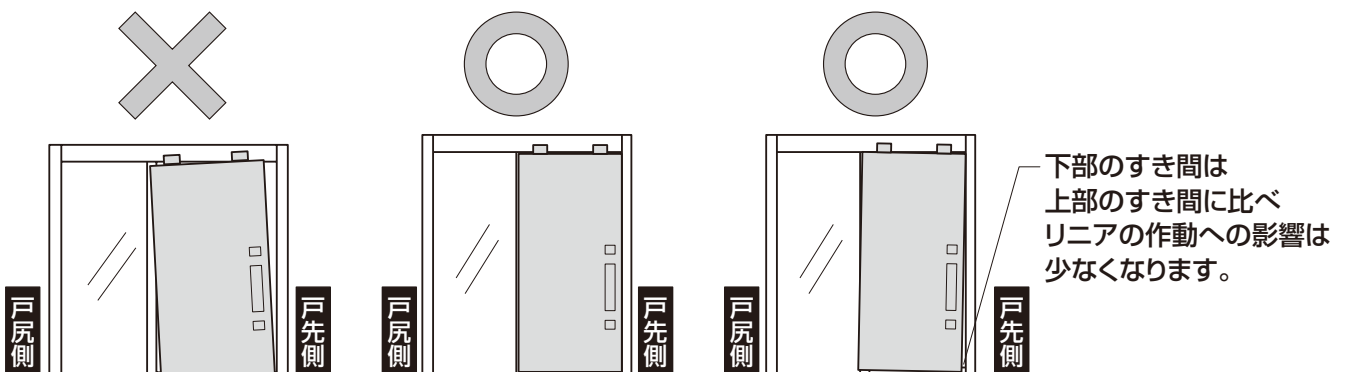
- ①カバーフックの下側のねじを外します。
- ②上側のねじを少しゆるめて、カバーフックを90°以上回転させます。
- ③ハンガー取付けの六角ボルトM8(2本)をゆるめます。
- ④スペーサーを1枚抜き、六角ボルトM8を締め、縦枠上下部のすき間確認します。
- ⑤上下のすき間が均等になるまで④の作業を繰り返し行います。
- ⑥最後にハンガー取付けの六角ボルトの増し締めおよび、カバーフックのねじを元通りに締めます。



●調整のポイント

縦枠上下部のすき間はできるだけ均等になるような調整が必要ですがどうしてもすき間が出来る場合は、上部にすき間ができないようにしてください。

- ・建付け調整後は、戸先ガイドローラーとストライクの調整も実施してください。

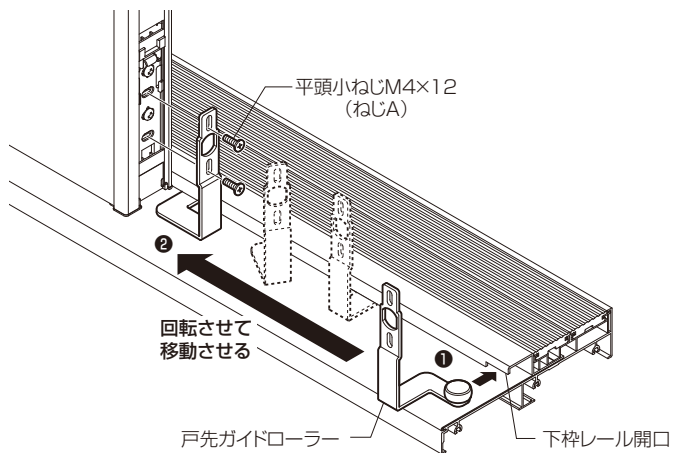
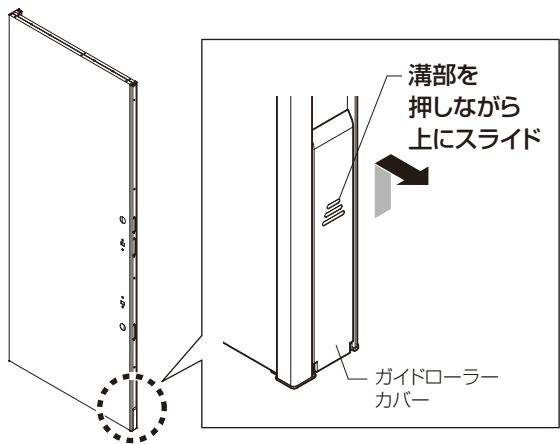


■戸先ガイドローラーの取付け・調整

※戸先ガイドローラーは本体吊り込み・建付け調整後、取付けてください。

①ガイドローラーカバーを取外します。

②下枠レールの開口に戸先ガイドローラーを挿入し、同梱の平頭小ねじM4×12(ねじA)で仮固定します。



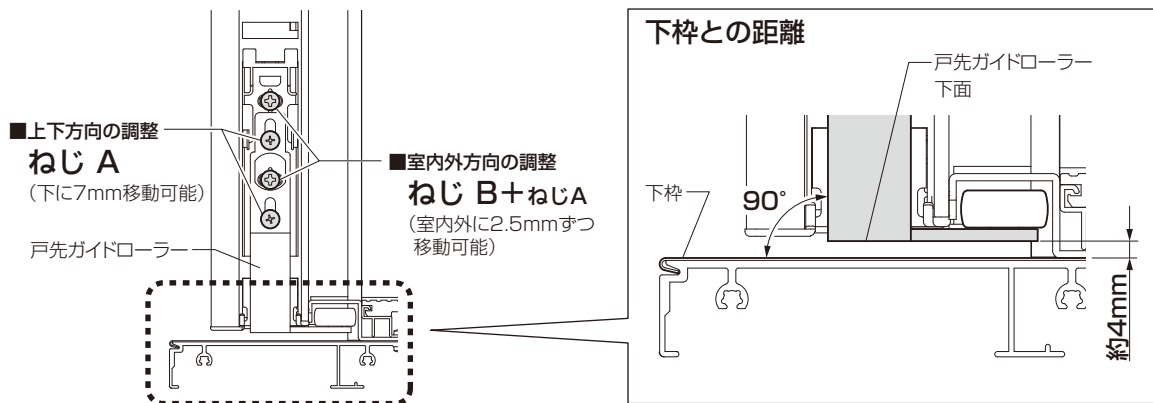
③ねじAをゆるめ、戸先ガイドローラー下面と下枠のすき間が約4mmになるように調整し、本固定します。

※建付け状態を考慮し、全閉から全開までのあいだで上記寸法になるように調整ください。

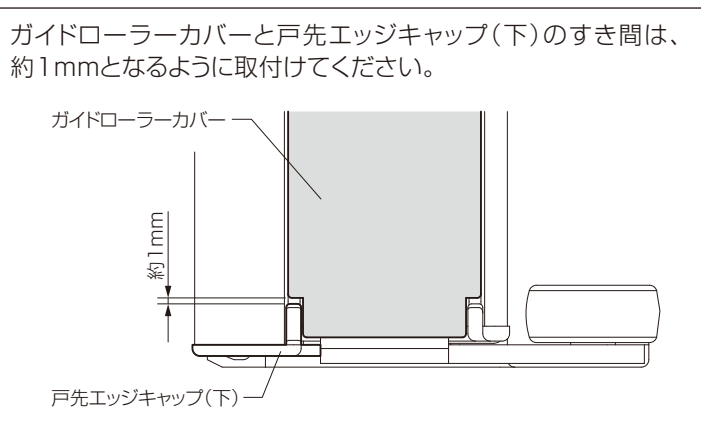
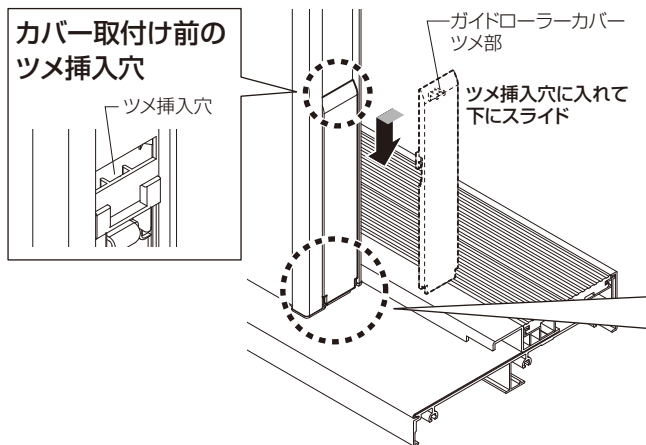
上記寸法からずれると下枠と戸先ガイドローラーが擦れて異音や開閉が重くなることあります。

※戸先ガイドローラーは、下枠に対して垂直になるように取付けてください。

※ドア下部と下枠の当たりが強いまたは弱い場合は、室内外方向の調整も合わせて実施ください。



④ガイドローラーカバーを取付けます。



お願い

※ドア本体を外す場合は、必ず戸先ガイドローラーを上記の取付けと逆手順で、外してから行ってください。

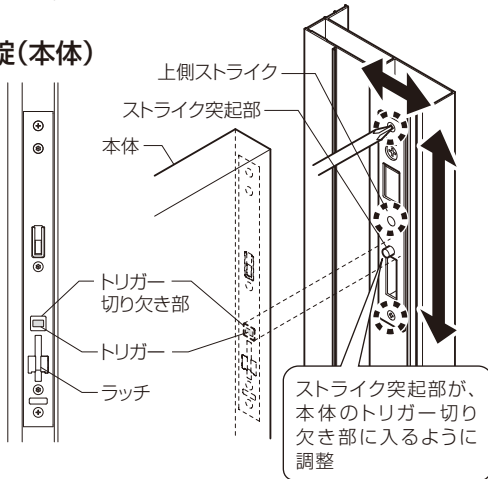
※ドア本体の高さ方向の建付け調整をする場合は、必ず戸先ガイドローラーのねじ(A)をゆるめてから行ってください。

■ストライクの取付け・調整

<上側ストライク>

- ラッチがかからない場合は、上側ストライクの位置を調整してください。
- ストライクの突起部が箱錠(本体)のトリガー切り欠き部に入るように調整してください。

箱錠(本体)

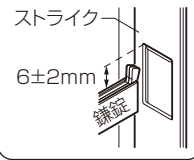


<上側ストライク、下側ストライク>

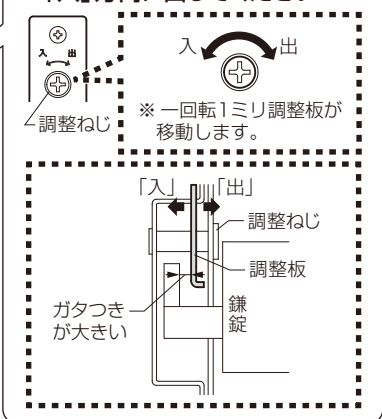
- ラッチがかかった状態でサムターンを回し、カギがスムーズにかかるかを確認してください。カギがスムーズにかからない場合は、ストライクの取付けねじをゆるめ上下、室内外の位置を調整してください。カギがスムーズにかかってラッチ解除時に開方向のガタつきが大きい場合は上、下ストライクの調整ねじで調整板の位置を調整してください。エントリー仕様の場合は上下のカギをかけた状態で、ラッチを解除させ、リモコンキーもしくはタッチボタンで作動することを確認してください。

■カギがスムーズにかからない場合

ストライクの切り欠き上端と鎌錠の上面のすき間は、 $6\pm 2\text{mm}$ を目安に調整してください

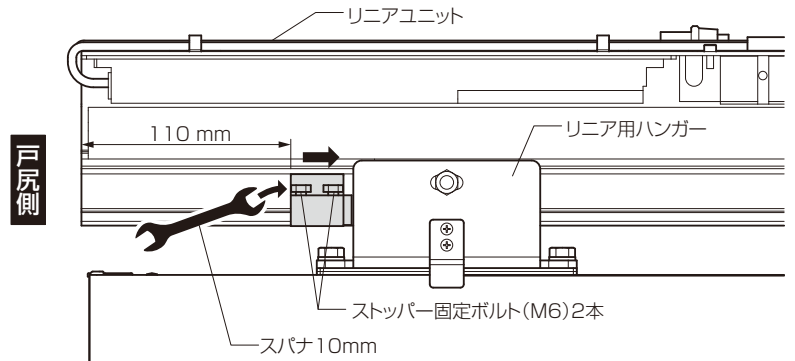


■開方向のガタつきが大きい場合「入」方向に回してください



■ストッパーの固定

- リニアユニットのストッパーの固定ボルト(M6)2本をスパナで増し締め(約 $5\text{N}\cdot\text{m}$)してください。
- ※全開時にリニア用ハンガーとストッパーの間にはすき間がある場合は、固定ボルトをゆるめ、調整してください。
- ※ストッパーは元の位置(110mm)より、戸尻側には、ずらさないでください。

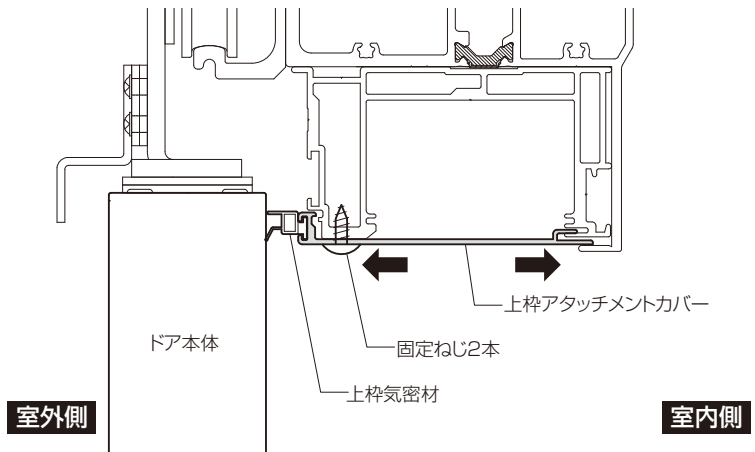


■上枠アタッチメントカバーの調整

- 上枠気密材がドア本体と当たるように上枠アタッチメントカバーを室外側に調整してください。当たりが強すぎて開閉力が重くなる場合は、室内側へ調整してください。
- 調整は、固定ねじをゆるめ、上枠アタッチメントカバーを室内外にスライドさせて行います。

お願い

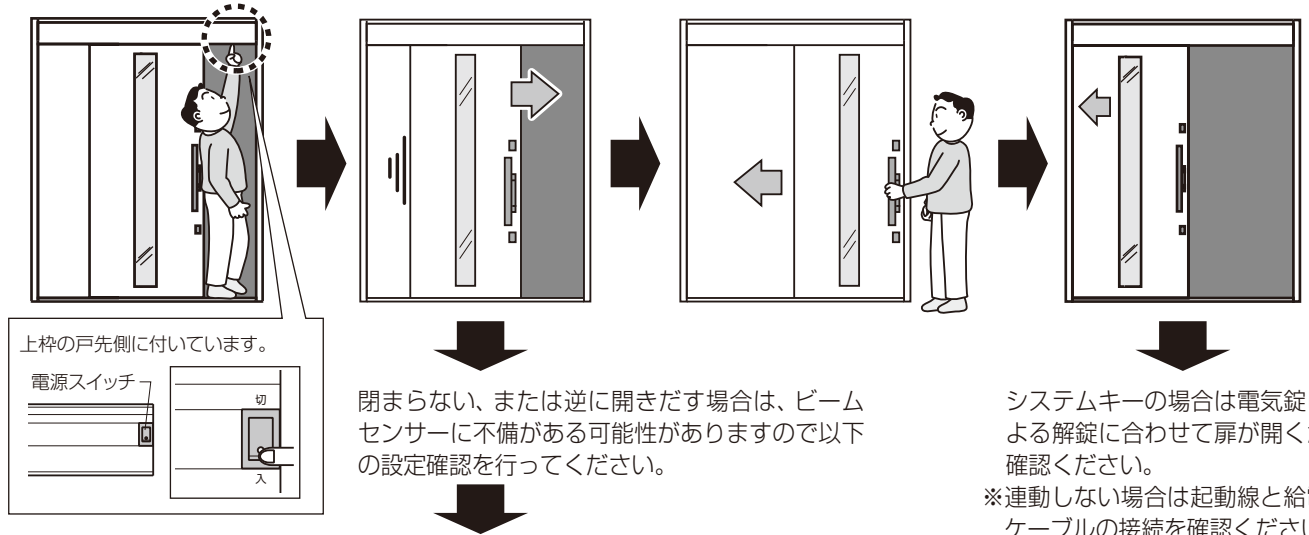
※固定ねじを再度締め付ける際は、手回しドライバーを使用してください。強く締めるとねじが効かなくなるおそれがあります。



■リニアの作動確認

- 電源スイッチを入れる前に引戸の可動範囲に障害物がなく、開閉がスムーズに行えることを確認ください。電源を入れた後は、『自己学習モード』になり、自動的に引戸が閉まってきます。その後何度か作動させ、正常に動くことを確認ください。

- ①電源スイッチを入れ、可動範囲並びに検知エリアから離れてください。
- ②約5秒後に引戸が自動的に閉まってきます。(自己学習モード)
- ③完全に閉まってから引戸を少し開けてください。(約1cm程度)自動で開きます。
- ④全開位置まで開きましたら自己学習モードは完了です。



1 設定確認方法

手順	電源動作表示灯	状態
設定ボタンを1秒押す	緑/赤 同時点滅	設定開始
↓	↓	↓
離す	緑/赤 同時点灯	設定完了
	↓	↓
	結果	

1秒後、電源動作表示灯で結果を確認してください。

2 設定結果

電源動作表示灯	状態と処置
緑点灯・赤消灯	異常なし
緑点滅・赤消灯	返ってくるビームが弱く、余裕不足の状態です。右記の①～④の確認を行い、「感度設定ボタン」を押し、再設定を行ってください。
赤/緑 交互点滅 緑/赤 消灯	結線のミスや機器の故障等でビームが返ってきていない状態です。右記の確認、対処を行ってから再設定を行ってください。



3 確認、処置方法

- ①シールド線が切断・接触していないか、結線が確実に行われているか。(『エルムーブ枠組立て説明書』参照)
- ②投光・受光間に遮光物がないか。
- ③レンズ面が汚れていないか。
- ④投光・受光センサヘッドが傾いていないか。

■開閉時間・速度の調整方法

- コントローラボックスの設定ダイヤルを精密ドライバー等で回し、変えることで、開閉時間、開閉速度を変更することができます。

※詳細は付属の取扱い説明書を参照ください。

【設定ダイヤル】

